未刊謠曲集

四

田中允編

古典文庫

未刊謡曲集

四

田中允編

古典文庫

古典文庫第二一三冊 ©

昭和四十年四月二十日　印刷発行　（非売品）

校者　田中　允

発行者　吉田幸一

東京都板橋区熊野町三四

印刷者　帝都印刷製本株式会社

未刊謡曲集

四

発行所　東京都（王子局区内）北区西ケ原町三ノ三四　古典文庫

電（九一九）二七一七

振替口座東京一四五九七番

目次

凡例……五
各曲解題……六
本文
宇賀神……（六）……二
姥が火……（六）……二五
烏羽玉……（六）……二九
梅乙女……（六）……三三
恵美酒祭（蛭子・夷講）……（六）……三八
猿通寺（豊寺・乙寺？）……（七）……四二
笈捜（富樫笈捜）……（七）……四六

近江八景……（七）……五〇
鸚鵡僧……（八）……五五
奥院……（九）……五九
小倉山……（九）……六三
小栗（照姫）……（九）……六七
大原入（寂光院）……（九）……七一
御室（御室八景）……（九）……七六
海経太子……（一〇）……八一
甲斐塚（三国伝来・浄土真宗・蓮如）……（一〇）……八五
鏡池……（一〇）……八九
笠寺……（一〇）……九三
累……（一一）……九七
花実童子（花実・花菓童子）……（一一）……一〇一
方浦（新山―韮山？）……（一一）……一〇四

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

金沢猩々……（一一）……一一四
兼実（一枚起請）……（一二）……一一七
鎌田（菊若？菊若丸？）……（一二）……一二四
竈之神……（一三）……一二〇
紙屋川……（一三）……一二四
亀井……（一三）……一二八
革袴……（一三）……一二三
河原太郎（高直）……（一四）……一五〇
関羽……（一四）……一五四
勧進文学……（一四）……一五八
丸馬……（一五）……一六三
祇園（祇園沙汰）……（一五）……一七〇
祇園詣……（一五）……一七二
鬼界嶋……（一六）……一七七

鬼骨寺（鬼神往生・鬼神往来）……（一六）……一八二
妓女谷行……（一六）……一八八
北白川……（一七）……一九三
吉次（信高・吉次信高）……（一七）……一九六
衣笠松……（一八）……二〇一
吉備（吉備大臣・野馬台）……（一八）……二〇六
吉備津宮……（一八）……二一一
行幸（聚楽）……（一九）……二一七

凡　例

一、第三冊に引き続き、発音別五十音順に並べた吉田本未刊曲のうち、「宇賀神」から「行幸」までの四十三番を収めた。

一、飜刻に際しての約束はすべて第一冊の凡例に示した通りである。

各曲解題

宇賀神（うがじん）〔五・斎〕福王系の名寄に散見するのみ。

姥が火（うばがひ）〔井1・吉・田・下・斎・朝2〕仙1の同名曲は別曲。福王系の名寄に散見するのみだが、これは吉田本の方であろう。

烏羽玉（うばたま）〔石田〕福王系の名寄に散見するのみ。烏羽と同材だが別曲。

梅乙女（うめをとめ）〔元・吉・下・仙1〕元禄十年版能之図式所収の名寄以下諸名寄所見。

恵美酒祭（ゑびすまつり）別名…蛭子・夷講〔元・下〕井上本八百番名寄に「恵比子祭」見え、江崎本遠キ諷組・松尾名寄に「蛭子」が見えるが、蛭子と題する曲は吉田本にも別に見えこの方は別名を「恵美酒」「西の宮」とある。下村本は本文異同あり、表題「蛭子」文末に「夷講」とある。能楽画報二十二巻十二号（昭和三年十二月号）に石川奇山氏の紹介がある。

猿通寺（ゑんつうじ）別名…豊寺・乙寺？〔元・井13・朝1・五・国3〕貞享四年版能訓蒙図彙所収の名寄以下諸名寄所見。神宮文庫本「古謡」（古典全集歌謡集中所収）外若干の曲舞集にサシ・クセが見え、クセの終りの「御子孫も繁昌し……」の一節は祝言小謡として近世後期の殆どの小謡集に所見。流布の広い点からも内容からも、室町後期か桃山期頃の作品らしい。

笈捜（おひさがし）別名…富樫笈捜〔井3・田・下・仙1〕笛揚・笈扒などとも書く。下懸系では主として笈捜は「刀」を指し、本曲は富樫笈捜となっている。安宅にならって作られた安宅よりは後の作と思われ、いろは作者註文には「おいさかしカタナ」「かたなヲイサカシノ事」とあるから、言継卿記天文元年四月三十日日吉猿楽勧進能所演の笈捜しは、室町期成立の刀の方を指すと思われる。近世の名寄に散見する笈捜は、刀の別名と註したもの以外は、どちらを指すか不明。

近江八景（あふみはつけい）〔井1・田・仙1・朝12・下〕この曲は蘭曲として有名で諸流に現存するが、蘭曲にもサシ・クセと下歌・上歌・論議との二種がある。内容を見るに、クセの方は近江八景を謡った独立した謡物と見てよいが、ロ

ンギの方は八景の繰返しに続いて白髭の神が中入する文句で終つているから、まずサシ・クセの謡物近江八景が作られ、続いて完曲が出来、更に完曲の下歌・上歌・ロンギが第二の近江八景蘭曲として伝えられたのではなかろうか。蘭曲は両方とも「八景」とも呼ばれるが、ロンギの方は特に「論義八景」とも呼ばれるのも、ロンギの方が後作であることを示すように思われる。申楽談儀に「へいさのらくがん」という詞章が引用されていて、これは蘭曲の両方共に見えるが、右の推定が正しいとすれば、完曲成立以前の古い謡物即ちクセの方の蘭曲の一節であろう。いろは作者註文には「近江八景」も「八景」も見え、鴻山文庫蔵巻子本車屋本曲舞にはロンギの方が「昔ノ白髭」として見えているから、あるいはロンギの方は古い白髭（現行曲はその改作であろう）の中入前の詞章を近江八景に借用したのかも知れない。しかしいずれにしても、完曲は室町後期か桃山期には出来ていたと見てよかろう。上懸と下懸とでは本文異る。

鸚鵡曲（あうむそう）〔井1・石（謡曲界大正十四年六月号に飜刻）・斎〕神宮文庫本「古謡」（古典全集歌謡集中所収）所収の同名謡物は本曲の上歌とクセ。享保

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

六年観世大夫書上所収謡名寄所見。

奥院（おくのゐん）〔斎〕いろは作者註文以下諸名寄所見。斎藤香村氏報告（謡曲講座第二期新発見の番外謡）の木食は本曲の別名かも知れない。

小倉山（をぐらやま）〔五・国34・朝12〕元禄十年版能之図式所収名寄以下諸名寄所見。

小栗（をぐり）別名…照姫〔石・元・鴻雑・下・国34・江・井3・仙1〕貞享四年版能訓蒙図彙所収名寄以下諸名寄所見。上懸と下懸とで小異。

大原入（おはらいり）別名…寂光院〔井3・斎・関1・浜・朝1・国3〕福王系名寄に大原入として散見するのみ。井3及び国3と他の諸本とは小異。関1はこれらとはまた異り、シテの出大異。本文の奥に飜刻。明和独吟所収の謡物寂光院は大原御幸の替謡（小書の特殊演出用）で本曲とは無関係。

御室（おむろ）別名…御室八景〔井3・国34〕御室としては貞享四年版能訓蒙図彙所収名寄以下諸名寄に見えるが、これは主として、御室経政（別名御室）の方を指すらしい。御室八景としては井上本八百番名寄に見えるのみ。国4と井3は

殆ど同文、他の諸本とは小異。

海経太子（かいきやうたいし）〔江・井13・国4〕元禄三年写江崎本謡名寄以下福王系名寄に散見。江・国4と底本・井13とは小異。

甲斐塚（かひづか）別名…三国伝来・浄土真宗・蓮如〔江（十番綴本）・江・井3・浜・国34〕甲斐塚・三国伝来として福王系の名寄に散見。享保八年版便用謡所収謡物「一向三国伝来」は始めの二句を除いてそのまま本曲のクセに一致するから、本曲は右の謡物に前後をつけて完曲にした浄土真宗PRの近世の作品であろう。享保十四年版小諷童子訓以下の小謡集に見える「かいつか」は本曲とは無関係。江崎本（十番綴本でない方）のみは前半異る。

鏡池（かがみがいけ）〔下・仙1〕元禄十年版能之図式所収名寄以下諸名寄所見。班女・隅田川・杜若の先行謡曲によったもので、近世初期の作であろう。

笠寺（かさでら）〔元〕仙1の同名曲とは別曲。元禄十年版能之図式所収名寄以下主として福王系の名寄に見えるが、福王系のものは本曲を指すと見てよく、能之図式も国附が尾張とあるから本曲を指すらしい（仙1は大和）。

累（かさね）江崎本諷名寄国附、その異本鴻山文庫本謳番組に共に福王盛有作とあり、吉田本の奥にも「右謡五番福王八世隠居長束常信作也」とあり、出雲路・足立野・葉山之露・衣笠松と共に福王盛有（元文三年に七十六歳で生存）新作五番の中の一。

花実童子（くわじつどうじ）別名…花実・花菓童子〔井12・朝1・国3〕神宮文庫本「古謡」（古典全集歌謡集中巻所収）所収の花実は本曲のサシ・クセ。花実・花実童子共福王系名寄に散見するのみであり、通小町の木の実の段、放下僧の小歌を取り入れて居り、近世に入ってからの作であろう。

方浦（かたうら）別名…新山（ニラヤマと読むか）〔江・斎〕元禄三年写江崎本謡名寄以下福王系名寄に散見。キリに夜討曽我を取り入れて居り、近世初期頃の作らしい。

金沢猩々（かなざはしやうじやう）〔下・国4・江・井13・田・樺〕元禄三年写江崎本謡名寄以下福王系名寄に散見。狂言集成所収大瓶猩々間狂言の奥に、これは猩々の間狂言で、金沢猩々もこれを流用する由記している。

兼実（かねざね）別名…一枚起請〔元・江・井1・紺・柴（二本あり）・国4・下・朝1〕兼実としては元禄三年写江崎本謡名寄以下福王系名寄に散見。一枚起請としては貞享四年版能訓蒙図彙所収名寄以下諸名寄所見。もつとも一枚起請と題する曲には別曲（佐・仙1等所収）があり、この方は美作であるが、諸名寄のうち国附のあるものは貞享四年版始め皆山城となつているから、諸名寄は本曲の方を指すと思われる。天和三年版乱曲集以下諸曲舞集所見の一枚起請（サシ・クセ）は、二種の一枚起請の両方共に見える。

鎌田（かまた）別名…菊若？・菊若丸？〔浜〕新・佐・田・下・仙1など所収の下懸系同名曲とは別曲。随つて上懸の鎌田は本曲、下懸の鎌田は新系統の曲と考えられ、能本作者註文の「作者不分明、但シ大略金春能カ」の項に見える鎌田が金春能だとすれば、下懸系鎌田となり、能本作者註文と同系の名寄であるいろは作者註文・浅野本異本謳曲作者などに見える鎌田も下懸系鎌田となろう。しかし下懸系は鎌田夫妻の幽霊が現れる平凡な構想であるが、上懸系は鎌田兵衛正清の遺児菊若丸が鞍馬の東光院に預けられ、母の手で出家までしたが景清に召し捕

られるという面白い着想の曲であつて、古作らしい構成であり、貞享四年版能訓蒙図彙以下諸名寄の国附は皆山城となつていて上懸系に一致するから、能本作者註文系諸本の鎌田も上懸系を指すかも知れない。天文三年四月九日の近江途中祭礼能での日吉・梅若立合能所見の「菊若」(言継卿記)が本曲の別名だとすれば、能本作者註文所見の鎌田が上懸系であることの可能性はますます強くなろう。江崎本遠キ諷組に「菊若」吉田名寄(吉田本番外曲外題集附載。遠キ諷組に一致する曲多し)に「菊若丸」が見える。

竈之神(かまどのかみ)伝本も他になく、名寄類にも所見のない珍曲。

紙屋川(かみやがは)〔井1・五・国34〕福王系の名寄に散見するのみ。舞の前後は采女と同文であり、近世初期の作であろう。

亀井(かめゐ)〔井1(観世昭和十七年九月号に飜刻)・五〕能本作者註文系諸本に観世小次郎作とあり、信光の作と推定される。古今謡曲解題に亀井戸の別名としているのは誤であろう。

革袴(かはばかま)〔元・石(謡曲界大正十五年四月号に飜刻)・井1・下・仙1〕

いろは作者註文以下諸名寄所見。石田本笛手附に笛の頭附所見。石田本と下村本とは殆ど同文だが、他の諸本とは小異。

河原太郎（かはらたらう）別名…高直〔毛・下・仙1・朝2・井1（謡曲界昭和十七年十一月号に飜刻）〕自家伝抄に世阿弥作とあるが、世阿弥作は疑問。いろは作者註文以下諸名寄所見。花伝髄脳記（舞芸六輪上巻）に「川原太郎。前男、水衣。後甲冑、袖無、法被。脇僧二人ばかり」と演出見え、石田本笛手附には笛の頭附が、大蔵虎明本間狂言（高直）・狂言集成・家蔵番外間狂言本・東京教育大学蔵間之本（二種あり）・古本能狂言集四所収大蔵虎清本間狂言などに間狂言が、それぞれ見える。毛利本は小異あり、笛の頭附は毛利本に近い。

関羽（くわんう）江崎本遠キ諷組にのみ所見の珍曲。

勧進文学（くわんじんもんがく）〔斎〕吉・田・田下・仙1・下など下懸系諸本所見の同名曲（吉のみは表題だけ文覚勧進）とは別曲。上懸の勧進文学が本曲、下懸の勧進文学は吉川本などの別曲の方か。もつともこの下懸系の方には文学が神護寺建立の勧進帳を読むところがあり、ここは福王流の江崎本語集に勧進文学と題

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com